東京・日本橋～京都・三条大橋

東海道五十三次を往く

創刊15周年記念連載

第37回

庄野の白雨

歌川広重が庄野宿を描いた「庄野の白雨」は、急に降り出した夕立に慌てる人々が生き生きと描かれており、広重の東海道五十三次の中でも白眉とされている。

庄野（しょう）の宿

広重の傑作「庄野の白雨」で名を馳せた宿場

石薬師宿から庄野宿の間はわずか2.7㎞と短く、東海道の中では御油宿～赤坂宿間に次いで短い。庄野宿も石薬師宿と同様に、四日市宿と亀山宿の宿間の距離が長すぎるため新たに設けられた宿場であり、東海道では最も新しい宿場である。「庄野町西」の交差点脇に庄野宿の石碑と案内板があり、ここから庄野宿が始まる。道幅の狭い通りの両側には、連子格子がある古い商家が連なり、往時の宿場町の雰囲気を感じることができる。旧小林家住宅は庄野宿資料館になっており、本陣の資料や民具などが展示されている。さらに先へ進むと、右手に庄野集会所があり、入り口脇に庄野宿本陣跡の石碑が。高札場跡を過ぎるとやがて石造りの鳥居がある川俣神社が現れ、その先に「東海道庄野宿」の石柱が見えてくると、早くも庄野宿は終わりである。ところで、広重の「庄野の白雨」の現在地を突き止めたかったのだが、そこはどうやら工場の敷地内らしく、残念ながら確認することはできなかった。

古民家のたたずまいに癒される

庄野宿の町並み　連子格子がある古い建物が庄野宿の往時のにぎわいを今に伝えているよう。

庄野宿資料館（旧小林家住宅）

江戸時代に油問屋だった小林家の主屋の一部を創建当時の姿に復元して庄野宿資料館として公開している。

高札場跡

幕府や領主による法度（禁止事項）や掟書（取り決め）などを書いた板札を掲げておく場所。庄野資料館では、実物の高札を見ることができる。

郷会所跡

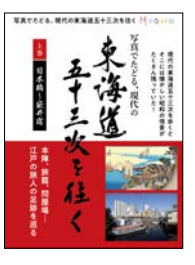
宿場が常備している人馬だけでは足りない時に、人馬を提供するように宿場周辺の農村に課した夫役を助郷（すけごう）と言うが、郷会所はその助郷の代表が集会する場所だった。

川俣神社

境内には樹齢300年と言われる県指定天然記念物のスダジイ巨木がある。

「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」

上巻（日本橋～袋井宿）好評発売中！



人気連載「東海道五十三次を往く」が待望の書籍化！写真をより大きく使い、迫力や臨場感を増して、現代の東海道を紹介している。定価は1,650円（税込）。お求めは全国の書店、ネット通販などから。

お求めはこちらからも！